はなみずきだより No.4

「定着してきた特別支援教室」

平成 29 年 10 月 2 日（月）
武蔵野市立第四小学校
特別支援教室 拠点校校長
榛　原　紀　子
はなみずき教室

武蔵野市立本宿小学校
校　長　大沢　武弘

巡回指導が始まり７か月が経ちました。本宿小学校には第四小学校から３名の先生がこられます。毎週火曜日は本校の教員と協働し、きめ細やかな指導をしています。

今年から特別支援教室専門員が指導に加わり、児童の育成に向けて協力体制が強化されました。本宿小は先行実施ということで、昨年度より、はなみずき教室を実施しています。お陰様で本年度は順調に活動が行われ７名の児童がお世話になっています。普段から通っている学校なので、抵抗感なく楽しそうに授業を受けています。

児童の学習におけるめあては、次の通りです。

１　自分の感情に気付く体験を通して、気持ちをコントロールする手掛かりを体得する。

２　自分の思いを考える活動を通して、人と関わる楽しさを体感する。

３　自信をもって身体を動かすことができるよう、運動機能や感覚機能の向上を図る。

以上のことは、はなみずき教室で学習している児童にとって、ぜひ、身に付けてほしいものです。

本校でも、年３回の担任連絡会を実施し、個々の児童について具体的な指導内容を協議しています。また、特別支援教室への興味・関心を養うために１年生から４年生を対象に「個性と支援の理解教育」を実施しました。

特別支援教室の制度は、まだ２年目ということで巡回教員の負担や本校における備品等の不足などの課題はありますが、１つ１つ克服し、はなみずき教室の効果的な運営に協力してまいります。

10 月の予定

月	火	水	木	金
2日 保護者面談開始 →	3日	4日	5日	6日
9日 体育の日	10日 四小運動会振替休業日	11日	12日	13日
16日	17日	18日	19日	20日
23日	24日	25日	26日	27日
30日	31日	11/2まで		

９月の活動報告

第四小学校

小集団活動では１学期の取り組みをバージョンアップしました。目を閉じて心を穏やかに、静かにする「気付き」を５分間行っていましたが、２学期、４分間は目を閉じ、１分間は目を開けた状態での「気付き」を行っています。感じ方も様々で、目を閉じた方がいいという子もいれば、目を開けた方がいいという子もいました。それらの感想を聞く中で、お互いの感じ方の違いに気付くことも大切な「気付き」です。

さらに８人程度の高学年から低学年まで混ざった大きな集団で活動をしたり、４人程度で学年も同じような子たちでの小集団で活動をしたりしています。大きな集団では高学年の子たちがお兄さん、お姉さんになって集団での活動のお手本を見せ、低学年の子が楽しみながらも集団の過ごし方を学びます。小さなグループごとの活動では、なかなか意見が言えない子もゆっくりではありますが、自分の意見を上手に相手に伝えることができるようになってきています。逆に大きな集団でお兄さん、お姉さんをしている子たちは低学年に遠慮して譲っていたことも、小さな集団では年齢が近いのでお互いに意見や気持ちを遠慮せずに伝え合う中でいろいろな考え方や気持ちを学ぶことができています。

授業の最後には必ず「振り返り」を行っています。「振り返り」では、自分以外の誰かが「良かったこと」や「素敵だったこと」などを伝え合います。はじめは、他の子の良いところまで全員が見付けることは難しかったようですが、少しずつ他の子の「良いところ」「素敵なところ」を見付けて、伝えることができています。お互いの良いところを伝え合うことで、より自己理解が深まりそれぞれの子たちの自信につながればと思います。

第三小学校

５時間目のメンバーで「ピクニック」に行っています。場所は体育館や第二会議室で、子供たちは皆一つだけお気に入りの遊び道具を段ボールに入れ、パートナーとなる教員とともにピクニック先に出発します。その後の活動は、自分のやりたい遊びを徹底的に楽しむ子もいれば、教員と一緒に遊ぶ子など人それぞれです。しかし、最近は友達が楽しそうに遊ぶ様子を見ると遊びに入っていこうとする様子が多くみられるようになりました。普段体を動かす遊びに積極的でないＡ君は、下級生のＢ君と体中から汗が噴き出すまでサッカーのような遊びをして楽しむ経験をすると、その後も、卓球のラケットやボールなどの皆でできる遊びを段ボールに入れて活動に参加するようになっています。大人の考えのもと活動や遊びを定めてその中で活動するのではなく、同じ空間を共有しながらそれぞれの遊びを楽しむ中で、「自分一人で楽しむ」「大人と一緒に楽しむ」という状態から、「友達の遊びに興味をもつ」「友達との遊びを楽しむ」という状態に変化している子供が見られるようになっています。もちろん、大人はただ遊ぶのではなく、「どのタイミングなら子供同士がくっつくか」を見極めながら遊びへの参加の仕方や声掛けを変えています。その場の状況や児童の表情の変化などを見ながら即時的な対応が多くなるため、子供とは正反対に活動が終わると皆ぐったりとしています。

大野田小学校

身体感覚の時間では、１年生５人で活動しています。９月に入ってから新しい活動が始まりました。「チーム三目並べ」と「サッカーボールドリブル」です。

「チーム三目並べ」では、２チームに分かれて相手チームより早く縦横斜めにタオルを投げ入れる〇×ゲームのような活動です。普通の三目並べとはひと味違います。置くべき的のある場所まで片足ケンケンで向かうこと、“チーム”なので交代しながらタオルを投げ入れるリレーであることです。子供たちは相手チームより早くタオルを投げ入れるため、自然と体を目一杯使ってケンケンしています。的のそばに行ってようやく状況がわかるため、そこからどこに置いたらいいのかを考えます。始めたばかりの活動なので、まだまだ苦労しながら頑張る子供たちですが、楽しみながら体も頭も育ってくれることを願っています。

「サッカードリブル」も盛り上がっています。コーンを目掛けてドリブルをしていくのですが、脚でボールを扱った経験の少ない１年生はどの子もなかなか上手くはいきません。サッカーを習っているＡさんは、「僕がお手本になります。」と積極的に活動に向かっています。自信のある子が手本となり、それぞれの子供が動き方を学ぶ。同学年集団ですが、学び合いができることを大切に指導に生かしていきます。

本宿小学校

個別指導の時に「Ａ君スペシャル」というのを行っています。「物を製作する」ために、①製作の説明書を「読み」②説明書から準備するものを「書き」③材料や道具を揃えて④説明書に従って作業をしていきます。①では読めない漢字も前後の脈略からとりあえず読んでみる。②では文章の中に書かれた材料や道具だけでなく、「〇ｃｍ〇ｍｍ測る」という言葉から定規を用意すること、「切る」という言葉からハサミを用意することをイメージして書き出すことも必要です。③はもし足りない物があったら専門員の先生に丁寧な言葉で「依頼」して貸していただきます。④は文章内容を理解して作業をしていきます。「Ａ君スペシャル」の教材の中には「読み」「書き」「読解」「算数」「ソーシャルスキル」「手先の巧緻性」と、Ａ君に必要な様々な課題が含まれているのです。Ａ君に初めてこの課題を行った時のこと。①～③までの作業はスムーズに終わっていたのに④の作業になかなか取り掛かりませんでした。「どうしたの？」と聞くとＡ君は「先生、これって最後には何になるの？」と質問してきました。目の前にあるのはクラフトバンドが巻かれた物だけだったので、それがいったい何になるのかイメージがつかなかったようです。「小物入れになる籠だよ。」と伝えると、安心して作業に取り掛かっていきました。「全部作るのには２～３か月かかるよ。」と伝えると驚いていました。クリスマスに間に合うように製作中です。

ちょっと一息

夏休みに、渋谷区子ども総合支援センターの阿久澤栄先生のお話を聞く機会がありました。渋谷区では、「30 秒抱っこ大作戦」をしているのだそうです。最近、お子さんを抱っこしていますか？高学年になったら、なかなか抱っこする機会はないですか？でも、ハグだったらどうでしょう。これはできるかもしれませんね。この「抱っこ大作戦」には、３つのポイントがあります。①膝の上ではなく立った子供をギュッと抱きしめる。②抱いたまま、学校の話を聞き、たくさん褒める。③「〇〇ちゃんだーい好き！」と言う。の３つです。本気で毎日続けますが、決まった時刻にはしない、保護者が疲れている時は②は省略して５秒でもいいのだそうです。抱っこやハグが難しかったら、「我が家でできる方法」を考えてみてはいかがでしょう。小学校時代にしかできない親子のスキンシップもあるはずです。今のうちに、いっぱい触れ合ってほしいなと思います。

お知らせ

保護者面談のお知らせ

１０月２日（月）～１１月２日（木）までの間、保護者の方と担当の面談を行います。お子様の前期の指導内容や、学校やご家庭での様子について確認し、後期の指導の方向性について話し合いたいと考えています。ご多用のところとは存じますが、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、面談場所や日時に関しましては、おたよりまたは連絡ファイルにてお知らせします。

本宿小はなみずき教室の紹介

パーテーションで区切って学習しています。

運動する時には集会室で行います。